

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第02回：2023年10月11日（水） 遠隔・オンライン実施

来週10月18日は「対面授業」で実施見込みです。

再来週10月25日は「遠隔オンライン」で実施見込みです。

「議会」

<時事問題・コラム>

(前回の続き)

★「議会：音源②B」

[急な採決は誰にも求められていない？]

○白熱電球の発明などで著名な発明王トーマス・エジソンが1868年に人生で最初の特許を取ったのは「電気投票記録機」と言われている。議会でボタンを押せば、一瞬で賛成票・反対票の数を数えられる。(今は参議院にはありますが)

→これは議会にとっては、とても便利な発明でしょうか？ 実際には採用されない。
なぜか？ 「どのような順番で採決するか」「どのように時間を掛けて採決するか」
それこそが政治だから。
(エジソンは採決・多数決が議会の目的だと勘違いをしていたからかもしれません。)

◇「議会で審議をする意味」とは？

・「選挙で勝った！！」じゃあ勝った人がすべてを自動的に決定する独裁者になる？
議員の任期が終わるまで（もしくは解散するまで）安倍さんや鳩山さんが独裁者になって政治を何でも思い通りにできる？

→基本的には間違いではない。だって民主主義（デモクラシー）でしょ、と。
(安保法制に関しても重要なのは、与党（自民公明）は元々集团的自衛権を公約にして衆院選・参院選で勝っていたということ。反対だからとそれを全く認めないのは選挙結果の否定であり、議会制民主主義の否定となります。)

○民主主義だけであればそれでも良い。国民が民主的に選んだ政策なのだから。
→じゃあ結果は出ているのだから「審議」なんてする必要ないじゃないでしょうか。

～～～共産主義国家などはこの考え。共産党が正しいのは当たり前で、自由に審議しても資本家（金持ち）が力を持ってしまうから共産党が「正しい」方向に

国民を導いてあげないといけない！！（使命感）。

- ・「お金持ちの資本家」よりも「貧しい労働者」のはずが人数が多いのは当たり前。選挙なんてしなくてもわかる。だとすると民主主義であれば共産党が勝つという信念（＝思い込み）。選挙で負けるとすればそれは資本家に労働者が騙されているからだ。（北朝鮮。共産党（朝鮮労働党）に反対する人は資本家に騙されている。→政治犯収容所で「正しい考え」を学びなさい、ということになる。自由な選挙なんかいない。＝「民主集中制」と言われる。）
（北朝鮮は自分達を「民主主義」だと考えている。ただし「自由主義」ではない。）

★「議会：音源③C」

→解散した「SEALDs」など、「自分達の考えが正しい」から「選挙結果・多数決」には従わないという人達も基本的に同じ。「正しい」ことが「選挙結果」より優先している。だから「民主主義だと言いながら選挙結果に従わない」珍妙な事態が起こる。

議会について 「採決」と「審議」 の役割を区別して思考を整理する。

◎ここで重要になってくるのが「自由主義」。議会制度というものは「自由主義」に基づくものと言える。

→「私達が自由に政治的な判断を行うためには審議の中で選択するための情報が必要。」
（目隠しをされて選択肢を選ばされたとしても、それは自由な選択じゃない。）
（だからしっかりと審議をするということは政治的自由の中でとても重要になる。）
（文化祭でのクラスのイベントでドーナツ屋が人気でも赤字の心配があるなら反対だという人もいるかもしれない。長所と短所を知った上での人気投票でしょうか。）

その結果、「自由民主主義」の中には2つの、ある意味で真逆の発想が出て来る

└◎「民主主義」 ・ ・ さっさと決めちゃおうよ。国民の判断は示されたのだから。

└◎「自由主義」 ・ ・ じっくり時間を掛けて国民に情報を示さないといけないよ。

- ・ ・ この点の違いを（最近のデモ参加者などは理解できていない様の思われることもあるが・ ・ ）皆さんはしっかり学習して下さい。なんでも「民主主義」結びつけよう」とすると意味不明な発言になる。そこは区別しないといけない。

○「自由主義」の観点から「しっかりと審議をしろ！」と叫ぶのは妥当な主張。

一方で審議時間を確保してみんなの意見がだいたいまとまったのに、採決・多数の主張を否定することは単なる「民主主義」の否定。審議をしたのにまだ「多数の横暴は許されない」と叫んでいるとすればそれは議会制民主主義の敵。
（それでは共産主義国などと同じ事になる。）

次に「審議」の中で、審議に何を期待するかで議会には2つの役割がある。

＜実は矛盾するかもしれない議会審議の2つの目的＞

└◎ [1] 審議して話し合っ内容の良い方向に修正して良い法律や予算を作る。

└◎ [2] 各党が良い政策を作る能力の競争をして国民に支持をアピールする。

[1] →各党が話しあって審議して内容を[修正]する。

[2] →自分の党が絶対正しいと言い張って他党より優れていると[アピール]する。

【注意！】実際には与野党で意見が対立していないことも多いので、その場合には相談して調整して全会一致で可決する。ほとんどの法案が全会一致。しかしそれはニュースにはならない。対立している内容だからこそ報道される。そのため、「本当は反対ではないのにわざと反対する」こともある。不毛な対立になる場合もあるが、争点を国民に示すという意義もある。長所・短所どちらもある。

★「議会：音源④D」

「審議」は 「修正」のためにあるのか？ 「アピール」のためにあるのか？

先年（2015年9月）の安保法制の審議では、野党の中でも対応は分かれた。

[1]: 次世代・元気（旧みんな）・改革・・・付帯決議を条件に賛成に廻る

[2]: 民主・維新・共産・社民・・・対案よりも全面的に否決を目指す。

付帯決議：①日本への武力攻撃がない場合には国会の「例外なき事前承認」、②「情報開示と丁寧な説明」と、派遣後180日ごとに国会に報告、③国会が自衛隊の撤退を決議した場合はすぐに活動を中止、など。

- ・これはいわゆる「対案」を出すか出さないか、という問題とも関わることになる。対案があれば、政府案と違いがある部分についてだけ審議をすれば良いことになる。
- ・どちらを重視するかという違いによって「議会」に求められるものも変わってくる。国によっても違う。これを典型的にまとめると、イギリス型・アメリカ型。議会のシステムは一つではない（イギリス型は極端に言えば三権分立ではない。）

＜1. 議会の比較 イギリス型・アメリカ型＞

○この発想の違いは議会制民主主義では常に存在する。

「アメリカの議会」と「イギリスの議会」はどちらもうまく議会が機能している国の例ではあるのだけれど、この[1][2]どちらを重視するかで発想は全く異なる。

イギリス： 本会議が中心 ・法案の修正はほとんどない。
議院内閣制（議会で議員の中から首相が選ばれる。）

アメリカ： 委員会が中心 ・委員会での法案の修正が多い。

大統領が別にいる。大統領と上院・下院の議員は別個独立。

アメリカは立法（議会）と行政（大統領・政府）が分かれているけれど、イギリスや日本は三権分立よりも、むしろ一体であるべきだという考え。（日本でも地方議会については、戦後にアメリカの制度が導入されたこともあって首長（県知事など）・議会（県議会など）は全く別に選挙される。）

○悪い言い方をすれば、

イギリスは・・・選挙が終わったら与党にお任せ。議員は党首に服従。

与党から大臣や政府のポストについた人だけが政策を決める。

アメリカは・・・細かいことは大統領にお任せ。議員は大統領に従う義務は全くないからとにかく「利権」を追及。「金のために法案修正」。

どちらも一長一短。

★「議会：音源⑤E」

○良い表現の仕方をする、

イギリス： 「アリーナ型議会」・・・討論の舞台で見せ場を作る。

アメリカ： 「変換型議会」・・・国民の細かい希望を密室で盛り込ませる。

結果的に議会の役割がかなり違ってくる。

「アリーナ型」・・・野党には特にできないことがない。あきらめ感もある。

とにかく国民にアピールすれば良い。→党首討論など

次回★「議会：音源⑥F」

「変換型」・・・とにかく内容を修正する。大統領の思い通りにはさせない！

いざとなったら予算を否決して、政府機能がストップしても構わない！！

（アメリカでは予算否決での政府機関ストップも時たま起こる。）

<質問カード・コメントカードへの応答>

Q 「『民主主義』というのは、民がどんな状況であるか(自由か否か)にかかわらず形式として民の票を募っていれば名乗れる、ということで正しいですか？」

A 「定義として多数の者が支配するということで（＝少数の国王や貴族による支配ではない）というだけですので、民主主義であれば理想的な政治になるなどというのは誤解です。選挙で選ばれた大統領が強大な権限を持って独裁者になることもあります。共産主義の場

合には革命によって多数派の労働者の支持によって成立したということになっているので、民主主義だと自分達では主張しています。一方で自由主義的な自由な討論や審議、秘密投票や自由な立候補などは無視していますし、金持ちの資本家のための制度だとして馬鹿にしているわけです。

このあたりは前期の政治学Aの方でも扱いましたので受講されていた方は思い出してみてください。」

Q「ミャンマーでは民主化とクーデターが度々発生していますが、なぜ解決しないのですか？」

A「元々国際環境の中で軍部が強くて鎖国に近い状態でした。そこに最近政党の力が強くなり選挙での政権交代なども起こったところです。解決というのがよくわからないですが、軍部がずっと支配していれば安定はしていますが、民主化で変化が起こればそれに伴う動揺があるのはむしろ当然と言えます。もしすぐに解決するとすれば民主化が完全失敗という方向になるでしょうか。政党と軍部の勢力が拮抗しているというだけですのでいちいちクーデターくらいのことで驚いていては政治分析ができませんので驚かずにそういう国だと思って分析しましょう。

民主化と言えば正しいというのも思い込みで、軍部が悪というわけでもありません。アウンサンスー・チーなども政党指導者で抵抗のシンボルとされていましたが事実上の権力者になってみたら少数民族の虐殺も継続し、民主化したのに外国の支援者などからは失望の声が出ました。」

